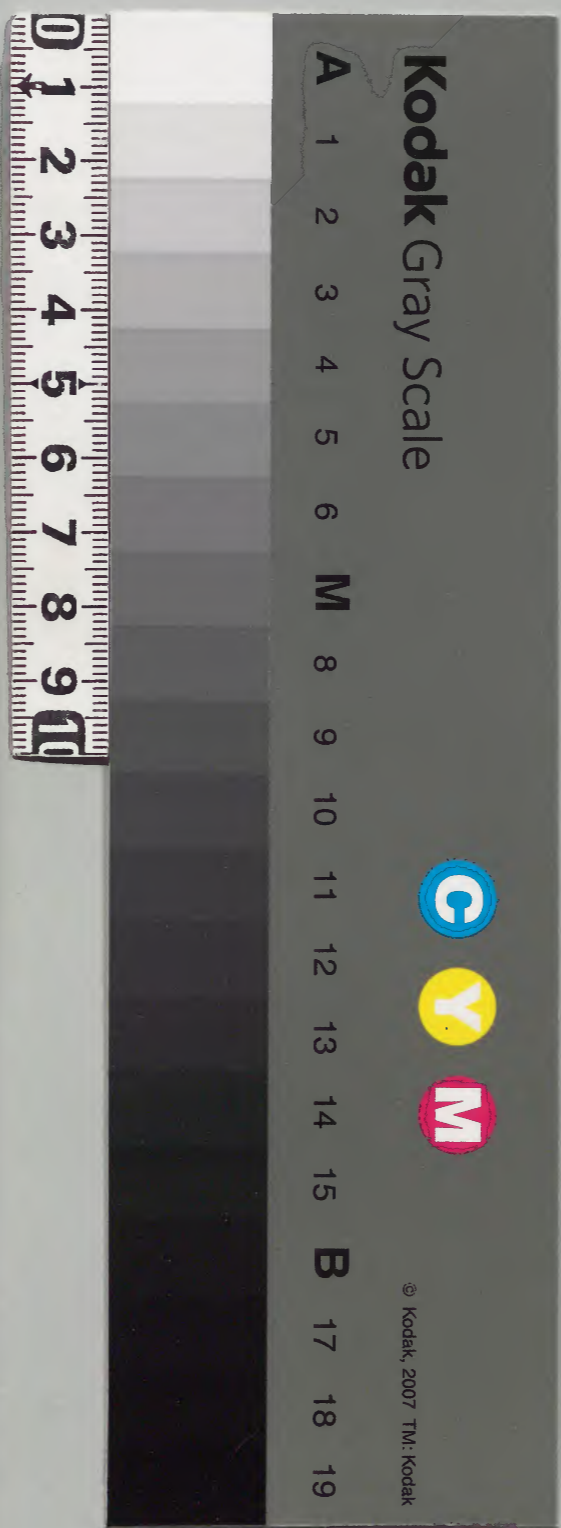


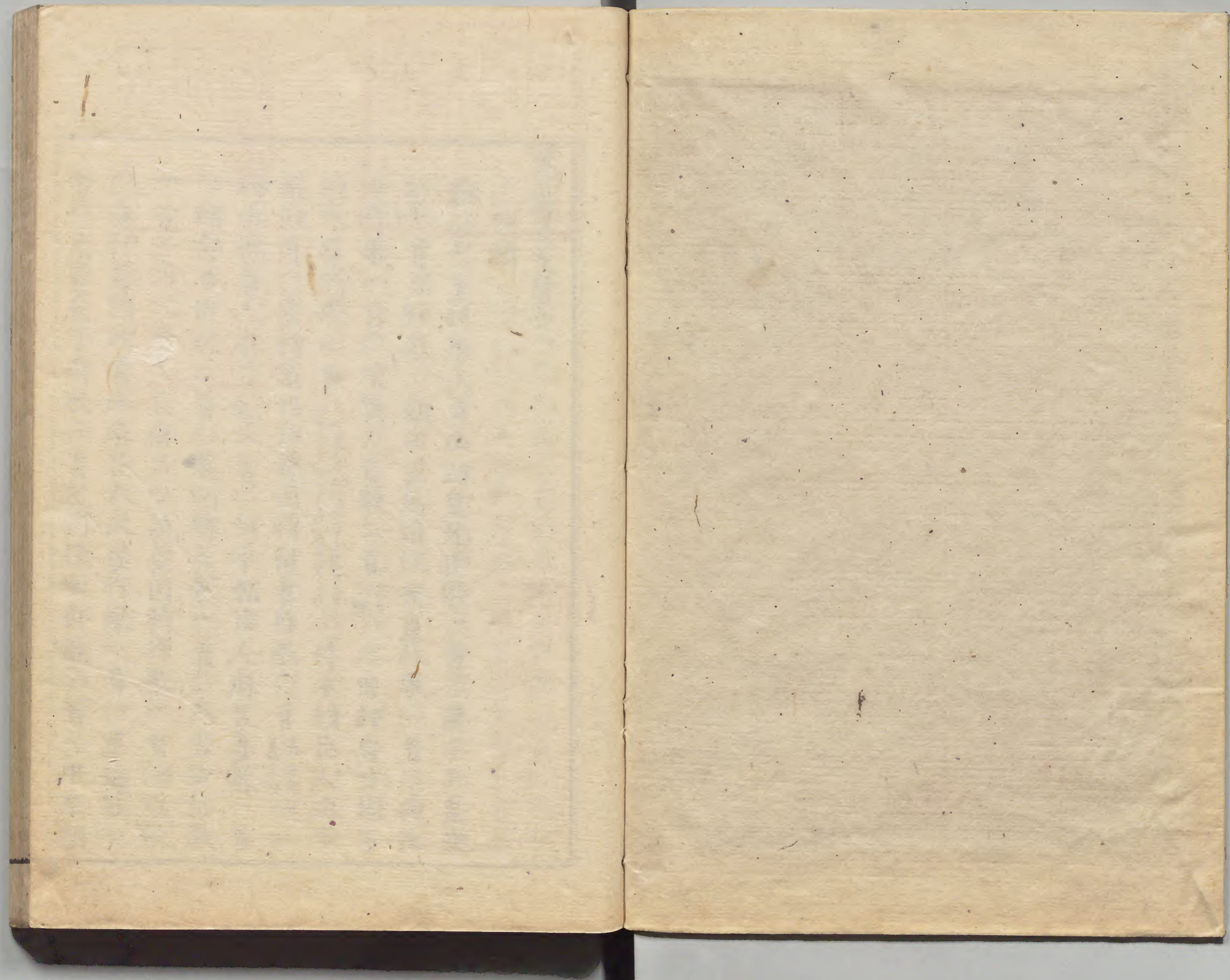


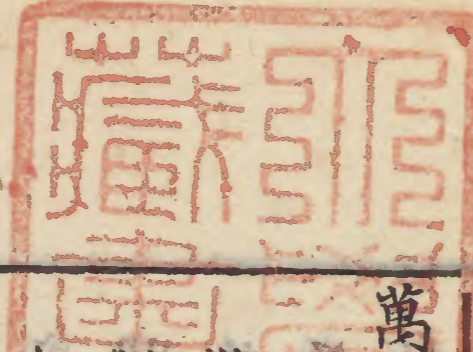
和書門			
三二	三八	二〇四三七	類
冊	架	函	號

庫文閣内		
二六三函	二〇四三七	和書
一五架	三二冊	類

内閣文庫	
番號	和 20437
冊數	32 (7)
函號	263 44





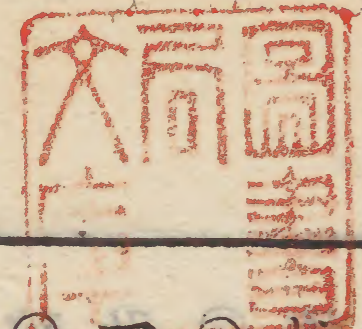


萬葉集卷第四

相聞

淺草文庫

難波天皇妹奉上在山跡皇兄御歌一首○崗本天皇御製一首并短歌○額田王思近江天皇作歌一首○鏡王女作歌一首○吹簧刀自歌二首カヒカ○田部忌寸操子任太宰時歌四首太宰の下帥のつとむ後せらるる○柿本朝臣人麻呂歌四首○基檀越往伊勢國時留妻作歌一首基本交子○柿本朝臣人麻呂歌三首○柿本朝臣人麻呂妻歌一首○阿部女郎歌二首○駿河嫁女歌一首○三方沙弥歌一首○丹比真人笠麻呂下筑紫國時作歌一首并短歌○幸伊勢國時當麻呂大夫妻作歌一首○草孃歌一首○志貴皇子御歌一首○阿倍女郎歌一首中臣朝



臣東人贈阿倍女郎歌一首阿倍女郎報贈歌一首
と一本答 ○大納言兼大將軍大伴卿歌一首 ○石川郎女
よはる 歌一首 ○大伴女郎歌一首後人追同歌一首
○藤原宇合大夫遷任上京時常陸娘子贈歌一首 ○京
職大夫藤原麻呂大夫贈大伴郎女歌三首
藤と草と伴上 ○大
大と大と 伴郎女和歌四首 ○大伴坂上郎女歌一首
大上と文 ○天皇賜海
又の字 上女王御歌一首 海上女王奉和歌一首 ○大伴宿奈
麻呂宿祢歌二首
歌字 ○安貴王戀歌一首并短歌
を文と ○
と取 門部王戀歌一首
一その ○高田女王贈今城王歌六首 ○神
字は 龜元年甲子冬十月幸紀伊國之時為贈後駕人所詛娘
子笠朝臣金村作歌一首并短歌 ○二年乙丑春三月幸
三香原離宮之時得娘子笠朝臣金村作歌一首并短歌

万解四上 一

幸の字 ○五年戊辰太宰少貳石川朝臣足人遷任餞于筑
と取 前國蘆城驛家歌三首 ○大伴宿祢三依歌一首 ○丹生
女王贈太宰帥大伴卿歌二首 ○太宰帥大伴卿贈大貳
丹比縣守卿遷任民部卿歌一首
一首の ○賀茂女王贈大
字と取 伴宿祢三依歌一首 ○土師宿祢水道後筑紫上京海路
作歌二首 ○太宰大監大伴宿祢百代戀歌四首 ○大伴
坂上郎女歌二首 ○賀茂女王歌一首 ○太宰大監大伴
宿祢百代等贈驛使歌二首 ○太宰帥大伴卿被任大納
言臨入京之時府官人等餞卿于筑前國蘆城驛家歌四首
○太宰帥大伴卿上京之後蒲誓沙弥贈卿歌二首 大
納言大伴卿和歌二首 ○太宰帥大伴卿上京之後筑後
守葛井大成連悲歎作歌一首 ○大納言大伴卿新袍贈

攝津大夫高安王歌一首○大伴宿祢三依悲別歌一首
 ○金明軍與大伴宿祢家持歌二首○大伴坂上家之大
 嬢報贈大伴宿祢家持歌四首○大伴坂上郎女歌一首
 ○大伴宿祢稻公贈田村大嬢歌一首○笠女郎贈大伴
 宿祢家持歌二十四首 大伴宿祢家持和歌二首○山
 口女王贈大伴宿祢家持歌五首○大神女郎贈大伴宿
 祢家持歌一首○大伴坂上郎女怨恨歌一首并短歌○
 西海道節度使判官佐伯宿祢東人妻贈夫君歌一首
 佐伯宿祢東人和歌一首一首の
字と脱 ○池邊王宴誦歌一首一首
の字と脱 ○高安王曩
 餉贈娘子歌一首○八代女王獻 天皇歌一首○娘子
 報贈佐伯宿祢赤麻呂歌一首 佐伯宿祢赤麻呂歌一

万辭四上 二

首本文歌字
上和の字より ○大伴四網宴席歌一首○佐伯宿祢赤麻呂
 歌一首○湯原王贈娘子歌二首 娘子報贈歌二首
 湯原王亦贈歌二首 娘子復報歌一首本文報の
字の字より 湯原
 王亦贈歌一首 娘子復報贈歌一首 湯原王亦贈歌
 一首亦と人
の字 娘子復報贈歌一首○湯原王歌一首○紀
 女郎怨恨歌三首○大伴宿祢駿河麻呂歌一首○大伴
 坂上郎女歌一首○大伴宿祢駿河麻呂歌一首○大伴
 坂上郎女歌一首○大伴宿祢三依離復相歡歌一首○
 大伴坂上郎女歌二首○大伴宿祢駿河麻呂歌三首○
 大伴坂上郎女歌六首○市原王歌一首○安都宿祢年
 之歌一首七歌字と脱本
女之と足す化 ○大伴宿祢像見歌一首宿祢の
字と脱 ○安
 倍朝臣蟲麻呂歌一首○大伴坂上郎女歌二首○厚見

王歌一首○春日王歌一首○湯原王歌一首 和歌一
首 不審作者○安倍朝臣蟲麻呂歌一首○大伴坂上
郎女歌二首○中臣女郎贈大伴宿禰家持歌五首○大
伴宿禰家持與交遊別久歌三首本久久
の字亮○大伴坂上郎女
歌七首○大伴宿禰三依悲別歌一首○大伴宿禰家持
贈娘子歌二首○大伴宿禰千室歌一首 未詳○廣河
女王歌二首王字下クニ
の字亮ハ○石川朝臣廣成歌一首○大伴宿
禰像見歌三首○大伴宿禰家持到娘子之門作歌一首
○河内百枝娘子贈大伴宿禰家持歌二首○巫部麻蘇
娘子歌二首○大伴宿禰家持贈童女歌一首 童女和
贈大伴宿禰家持來報歌一首本女和
まてハ字亮○栗田娘子贈
大伴宿禰家持歌二首○豐前國娘子大宅女歌一首○

安都麻娘子歌一首○丹波大女娘子歌三首○大伴宿
禰家持贈娘子歌七首○獻天皇歌一首○大伴宿禰家
持歌一首○大伴坂上郎女從跡見在贈賜留宅女子大
嬢歌一首并短歌○獻天皇歌二首○大伴宿禰家持贈
坂上家大嬢歌二首 大伴坂上大嬢贈大伴宿禰家持
歌三首 又大伴宿禰家持和歌三首 同坂上大嬢贈
家持歌一首 又家持和坂上大嬢歌一首 同大嬢贈
家持歌二首 又家持和坂上大嬢歌二首 更大伴宿
禰家持贈坂上大嬢歌十五首○大伴田村家之大嬢贈
妹坂上大嬢歌四首妹と姉
の字亮○大伴坂上郎女從竹田庄贈
賜女子大嬢歌二首○紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首
大伴宿禰家持和歌一首○在久通京思留寧樂宅坂

いさよはらに宮をさすは乃の得てといふもよきればいとるに何より地
名をわけて女の情をいさよわたりしよとせりあがりまの佳徳をいいて
こころは清くけりよこふいへる歌

右今案高市岳本宮後岡本宮二代二帝各有異焉但
併岡本天皇未審其指 はんのちかへり

額田王思辺江天皇作歌一首 天智天皇也額田王也

天智天皇の御時を天武天皇太子の御時とせりませり時を清く
そかりあへりよき一のあよりきりよきありよきあり

君待登吾戀居者我屋戸之簾動之秋風吹
まゝまゝとわがこゝろをわがまゝのまゝにうらゝあまのがせりよ

おゆるりみれば夏の風をぬくまゝにまゝにうらゝあまのがせりよ
まゝはまゝとわがこゝろをわがまゝのまゝにうらゝあまのがせりよ

鏡王女作歌一首 天武天皇初娶鏡王女 この女の字は鏡王女 鏡日本

額田姫王生十市皇女まゝとてあはれよき王女とあるハ誤り鏡女王とてハ
さう後女王ハ別後女王の女とて額田女王の御時とて今案高市岳本宮後岡本宮
江野洲郡の後里に在りし也後女王とてせりわがこゝろをわがまゝのまゝに

のこゝろをわがこゝろをわがまゝのまゝにうらゝあまのがせりよ
後女王といひてはつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとてつとて

天智天皇の御時を天武天皇太子の御時とせりませり時を清く

風乎太爾戀流波乏之風小谷将来登時待者何香将嘆
かせをいふこゝろをわがこゝろをわがまゝのまゝにうらゝあまのがせりよ

必まゝのこゝろをわがこゝろをわがまゝのまゝにうらゝあまのがせりよ
まゝはまゝとわがこゝろをわがまゝのまゝにうらゝあまのがせりよ

額田王の御時を天武天皇太子の御時とせりませり時を清く

置而行者妹將戀可聞敷細乃黒髪布而長此夜乎
なまけゆづいしひんのもまきくへのくらふよまきなまきこのよと

田部忌寸櫛子

吾妹兒矣相令知人乎許曾戀之益者恨三念
え唐本よりうにを様子のあこものちのそまはあくと妹は様子のままと
くろつこしきとに嫁が愛のおのづからうまうとこし
わぎもこをあいとくくびとをこそくいのまされけうけみか
わがめ嫌や一人とにさかして恨みかりうとをも様子と

朝日影雨保漱流山雨照月乃不歎君子山越雨置手

あさひのげあやへるやまふてのまきののわらわきまきまきまきまきまき
あさひのげあやへるやまふてのまきののわらわきまきまきまきまきまき
まきののわらわきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
櫛子、振え耐ままとまきくあつと地へりうら又ハあやいづこのうら

柿本朝臣人麻呂歌四首

三熊野之浦乃濱木綿百重成心者雖念直不相鴨

みくまののうらのたまゆふひなまきくうらむいどたふあなぬのし

古爾有無人毛如吾歟妹爾戀乍宿不勝家車
いふふあをけんいもわづごころいもあさひついにねがてふけむ
ちよとまん人の波とまきくうまあやうねがてあえんいねがてく
けしこ

古今和歌集卷之八

今耳之行事庭不有古人曾益而哭左倍鳴四

いまのみのわざふはあはれいづしうへのいごまをりてなほまんぢか
ゆらぐらき恋のいふ人ともうらみくとして自らを
百重二物来及蠢常念鴨公之使乃雖見不飽有哉

ひらもきおふもももゆらうもきみがつうひのみれどあのみらん
及ハサるるこころはのいづくにこころと空サ人まればぐ使と
あうぢむりよとらと空をハ二のらきりきやうもま向とくこの白と
もとよふんとしう哉ハ武の混るまへ

基檀越往伊勢国時留妻作歌一首 基ハ氏檀越ハ人
これとあうらえり、基古本及目録に基ハ作

神風之伊勢乃濱荻折伏客宿也將為荒濱邊爾

かんのせのいせのはまをきむらやういびねはらへんあはまはまは

柿本の栲河、和名抄荻 和名 宇木、これハ栲河よきも、荻ハ蘆ハ、ハ号そののら

柿本朝臣人麻呂歌三首

未通女等之袖振山乃水垣之久時從憶寸五口者

そとめらのそとやまのみつあめのひきまをゆめはひきりいしハ
そとめらが栲河大和石よの布前山乃袖あついでいしハみづ
かきの栲河いづとやうとこれハサひくうとつこのくま、十一
同寄と載て久き時由とかきり

夏野去小牡鹿之角乃束間毛妹之心乎忘而念哉

なつぬゆくをのつあいのつあまもいもがこころをこぼれりかへ
春ハ夏のをめよ角あておひくもが、いま、柱くれが束のちい
春とせらこ、ハ志と、ハひと、ハれんや、ハ

珠衣乃袂藍左謂沉家妹爾物不語来而思金津裳

今更何乎可將念打麻情者君爾綠爾之物乎

いまさら何んかたをたのむん人うらむじきこころなきよよらに其を

ま千四万ののともあがたのともまよふ物かきんこころあや

吾背子波物莫念事之有者大雨毛水爾毛吾莫七國

わがせここのわがむしこころあふひよこづもわれたけちこ

オ一もたまきあふちりしあつみのつらきもあふも英勿人よこころあ

あふくこころあふけくやこころあふけくやこころあふけくやこころあ

あふくこころあふけくやこころあふけくやこころあふけくやこころあ

あふくこころあふけくやこころあふけくやこころあふけくやこころあ

あふくこころあふけくやこころあふけくやこころあふけくやこころあ

もろきとまき

駿河嫁女歌一首

まきよ米女と嫁とまき

敷細乃枕後久久流涙三曾浮宿乎思家類戀乃敷爾

あふくこころあふけくやこころあふけくやこころあふけくやこころあ

あふくこころあふけくやこころあふけくやこころあふけくやこころあ

三方沙彌歌一首

衣手乃別今夜後妹毛吾母甚戀名相因乎奈美

あふくこころあふけくやこころあふけくやこころあふけくやこころあ

丹比真人笠麻呂下筑紫國時作歌一首并短歌

あふくこころあふけくやこころあふけくやこころあふけくやこころあ

あふくこころあふけくやこころあふけくやこころあふけくやこころあ

臣女乃匣爾兼有 鏡成 見津乃濱邊爾狹丹頰相

あふくこころあふけくやこころあふけくやこころあふけくやこころあ

紐解不離。吾妹兒爾。戀尔居者。明晚乃。且霧隱。
 鳴多頭乃。哭耳之所哭。吾戀流。千重乃。一隔母。名草漏。
 情毛有哉跡。家當。五口立見者。青旗乃。葛。
 木山雨。多奈引流。白雲隱。天佐我留。夷乃國邊雨。
 直向。淡路乎過。粟島乎。背雨見管。朝名寸。
 二水手之音喚。暮名寸。二。握之聲為尔。浪上乎。五十行。
 にかこのことをよひいやはまきまかぢらのとつたまのへをいゆさ

万解四上 十二

左具久美。磐間乎。射往廻。稻日都麻。浦箕乎過而。
 鳥自物。奥津左比去者。家乃島。荒磯之宇倍雨。打靡。
 四時二生有。莫告我。忤騰可聞妹雨。不告来。二計謀。
 臣女ま... 後... 臣ハサの...
 たり... 後... 臣ハサの...
 ま... 臣ハサの...
 たり... 臣ハサの...

幸伊勢國時當麻呂大夫妻作歌一首

吾背子者何處將行已津物隱之山乎今日歟超良武
わのせこいづくゆくんおまらむのなづかれやまをたよりこゆくん

けり事一首まゝんこあまゝく載り

草嬢歌一首

草の香とをせりあちのうらここののいんちと前へ

秋田之穂田乃刈婆加香縁相者彼所毛加人之吾乎事將
成世の御神史而出来九月十日穂田乃對而奉獻

あきのこのほづのかりばがやうあまそそものむのわをこたやん

穂田ハ刈りてらの田也刈婆加ハ刈計の畠まき橋の刈殺よるれうとり
ちるべト者よりあまの考ハ後ほさく刈殺よまれば橋みのまき
ちびまよとあまそと男女の今もほへるなの人末ハまつより金のおこ
びんよ一人のまきとていんちと人といんちとぬいれまきま十粒の田れ

鹿ヲ庶
ニ誤

志貴皇子御歌一首

大原之此市柴乃何時鹿跡吾念妹爾今夜相有香裳

おろはるのこのいちばのいつとわがひいよあまひあへふこのし

大原ハ大和也柴ニハ香とこのよに宮やうり大原のちよふうらまは
とろ大原こいちばハ櫟柴といつとより序のこま十一道のへの五葉

吾刈婆可のさぬれが柴中三葉刈婆可なるまきとて刈殺のつと田と

植るよ刈もそあまひ一はう二はうまきとて男女おまきうらまは

と分て植り刈りまきとてあまひハまき一はうのゆのものよまあひまきと

おろはるあまひつげいんちはのこの世まきとて刈殺のつと田と

ふまけ一はう二まきとてまきとて一はうのゆの植るよ刈もそあまひ

まきとて植り刈りまきとてあまひハまき一はうのゆのものよまあひまきと

あまひあまひ

石川郎女歌一首 即佐保大伴大家也 安麻呂の妻

春日野之山邊道乎與曾理無通之君我不所見許呂香裳
かきあいのやまべのみちをよそわたりかきあひきみづみえぬころも

よそわたりはよそべきしよりしききこころも 孝十四和尔余多利ハ其ハ依
そのよしけいんゆえ唐を興とけりゆいおそわたりハされけりしよ
かきあひきこゆれどれびきり

大伴女郎歌一首 元 今城王之母也今城王後賜大原真人氏也 孫人

雨障常為公者久堅乃昨夜雨爾將懲鴨
あまのうつぬききみひいかにのきみのあまふらうふけんのも

あまのうつぬききみひいかにのきみのあまふらうふけんのも
あまのうつぬききみひいかにのきみのあまふらうふけんのも
あまのうつぬききみひいかにのきみのあまふらうふけんのも

いづれ公の男とて

後人追和歌一首 和と同とやう一布あうりくぬむ

久堅乃雨毛落糠雨乍見於君副而此日今晚
ひさかしのあまのあまづみきみよこころひてのひさか

藤原宇合大夫遷任上京時常陸娘予贈歌一首 續紀養

光三年七月常陸国守正五位上藤原朝臣宇合管安房上総下総三国一と
紀馬養よりうりく人へ馬養ハりまういしとれハ宇合もあまのあまづみ

庭立麻手刈干布慕東女乎忘賜名

小まのあまのあまづみをかきあひききりしあまのあまづみ
幸ハ娘のあまのあまづみ小垣内の麻矣苜干とあれハ手ハ字の

郎ヲ良
二誤

麻のふももりしはるも心さして麻のふももりし麻のふももりし麻のふももりし
て麻を刈るふ刈れる麻を刈るをおさへて干しとてまきりのふももりし
ふももりし麻のふももりし麻のふももりし麻のふももりし麻のふももりし

京職大夫藤原大夫賜大伴郎女歌三首 目録原下麻呂の字景

ハ終つた後紀養老五年六月後四位上藤原朝臣麻呂為左右京大
夫とすゆ、贈りしとまきと麻を刈るもまきと麻を刈るもまきと麻を刈るも

感孀等之珠簾有玉櫛乃神家武毛妹雨阿波受有者

をこもらふもまきと麻を刈るもまきと麻を刈るもまきと麻を刈るも
神家武毛河内守マツクハ中とマツクハ中とマツクハ中とマツクハ中と
まきと麻を刈るもまきと麻を刈るもまきと麻を刈るもまきと麻を刈るも
まきと麻を刈るもまきと麻を刈るもまきと麻を刈るもまきと麻を刈るも
麻呂おほのあま上のまきと麻を刈るもまきと麻を刈るもまきと麻を刈るも

悉ハ蒸
ノ誤

悉被奈胡也我下丹雖卧與妹不宿者肌之寒霜
むしふももりし麻のふももりし麻のふももりし麻のふももりし

古事紀ハ手矛神のまのあま牟斯夫須摩なるや
かゝる余の和やのちもをとりし悉ハ蒸の誤と云ふるやせれり
よももりし麻のふももりし麻のふももりし麻のふももりし
大伴郎女和歌四首 大伴の下坂上のまきと麻を刈るも

謂ハ者
ノ誤

狭穗河乃小石踐渡夜干王之黑馬之来夜者年雨母有糠
さかぢのはのきざれあみわつてぬだつてまのくもよはれあむらむ
和名抄細石説文云磔佐礼以之ぬだつて馬の地相あむらむの河に
あむらむくもよはれあむらむくもよはれあむらむくもよはれあむらむ
くものよとれるくも梅も梅のよのくもぬだつたの夜の夜に
へわれあむらむ

千鳥鳴佐保乃河瀬之小浪止時毛無吾戀爾
ちどりなぐさむめのかきせのきざれあむらむくもよはれあむらむ
来る席へくもよはれあむらむくもよはれあむらむくもよはれあむらむ
将来云毛不来時有乎不来云乎将来常者不待不来云物
乎
ふんといふはあむらむくもよはれあむらむくもよはれあむらむくもよはれあむらむ

誤
二誤
族ヲ
誤

鳥ハ
誤
番

千鳥鳴佐保乃河門乃瀬宇廣彌打橋渡頭奈我来跡念者
ちどりなぐさむめのかきせのせといろみうらはやくもよはれあむらむ
右郎女者佐保大納言卿之女也初嫁一品穗積皇子被
麻呂てく郎女の家持のをむらむくもよはれあむらむくもよはれあむらむ
寵無傳而皇子薨之後時藤原麻呂大夫婿之郎女焉郎
女家於坂上里仍族氏号曰坂上郎女也 佐保大納言ハ女
又大伴坂上郎女歌一首
佐保河乃涯之官能小歷木莫刈鳥在尔毛張之来者立隱
金

隨身の夜の陣は伝と鳴りしとれりしよよのやうに二つがうら
のれと男まらまねいふよふにたぐりしものやれは言ときしを
よるしきりえ

大伴宿太麻呂宿禰歌二首 佐保大納言第三之子也

後元養老三平備後守正五位下管安藝周防二国とらんゆ此園より女
とるせしはの身。

打日指宮爾行兒乎真悲見留者苦聽去者為便無

うちひさしやふゆくことまがしむむれはるやれまはた

サ日さひは柱石とつりしは集申かうまらたういふまはし

をるまはしははしりしはとまをゆるしやうたれは我より聴去とち

難波方塩干之名凝飽左右二人之見兒乎吾四之毛

なまはたのしほのなまらあくるまふいよのふるまはしりし

姉毛ノ下
事車ト
有ハ
一ハ
事
切文

かまの竹波とてうきをるるまをうつまへん人のあはれ
をまはしははしりしはとまをゆるしやうたれは我より聴去とち
をるまはしははしりしはとまをゆるしやうたれは我より聴去とち

安貴王詞一首并短歌

遠孀 此間不在者 玉梓之 道乎多遠見 思空

とほづまのこふあはれはたまはしのまをたふみゆら

安 莫國 嘆 虚 不安 物乎 水空往 雲爾毛

やもくくたふふたげくそらやもくくたふふたげくそら

欲成高飛 鳥爾毛欲成明日去而於妹言問 為吾

かむたのこふあはれはたまはしのまをたふみゆら

妹毛事無為妹 吾毛 事無久今裳見如副而毛欲得

ゆらまはしははしりしはとまをゆるしやうたれは我より聴去とち

来。累月之後更起愛心。仍作此歌贈致娘子。

高田女王贈今城王歌六首 卷八の信高安之女也とあり

事清甚毛莫言。一日太爾君伊之哭者痛寸取物。

つねきまのいづらひしきいしきみきみいひるまきぞぞも

未の君伊の伊ハハヘカハ助ガシ一ハハ助ガ哭ハ信高無の事

つねきまのいづらひしきいしきみきみいひるまきぞぞも

他辞乎。繁言痛不相有寸。心在如莫思吾背。

いしきまのいづらひしきいしきみきみいひるまきぞぞも

あつふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あつふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

吾背子師遂常云者。人事者繁有登毛。出而相麻志呼。

わのせこにまのいづらひしきいしきみきみいひるまきぞぞも

万葉四上 廿二

墓^二基^一

一ハハ助ガシ一ハハ助ガ哭ハ信高無の事
吾背子爾復者不相香常。思墓今朝别之。为便無有都流
わのせこにまのいづらひしきいしきみきみいひるまきぞぞも
あつふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
てあつふふふ

現世爾波人事繁。来生爾毛将相吾背子。今不有十方。

このよふいしきいしきみきみいひるまきぞぞも

常不止通之君我使不来。今者不相踪絶多比奴良思。

つねきまのいづらひしきいしきみきみいひるまきぞぞも

あつふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あつふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

神龜元年甲子冬十月幸紀伊國之時為贈從駕人所詠

娘子笈朝臣金村作歌一首并短歌 後紀十年辛卯紀伊

幸のりま

天皇之 行幸乃隨意 物部乃 八十伴雄與 出去之
^{おやま} 出ぬるまの いまの まふりの ふの やさしもの とて でき
愛夫者 天翔哉 輕路後 玉田次 畝火子
うつら づまにあまふよ つかるのみちあり たちしき うねひを
見管麻裳吉木道雨立 真土山 越良武公者 黄
みつ あふもよきむらふい まつちまこゆるんきみまひら
葉乃散飛見乍 親 吾者 不念 草枕 客
たのちよふみつ ちくくわをいとおれとてくこくさくさ
乎便宜常思乍 公 将有跡 安蕨蕨二破且者雖知
をまるとゆゑひつまきみあつんとあつてあはかつまはれいも

一萬辭四上 サ三

之加須我仁 默然得不 在者吾背子之 往乃萬萬將 追跡者
志らまじくもいえずあわねわのせこぶゆきのものやく ねをしひは
千遍雖念 手媚女 吾身之有者 道守之 將問答
ちよひあへどたまやめの わのみあ あれはみちあやのどらんこ
乎言將遣 為便乎不知 立而爪衝
をいひやらんどもをいひとたまひつもの

八十伴の男とちよひて天原や枕詞の路はまよふ改むま
野のちよひのままはけがむまは敵火のふよまののままのままの
言は妹が聲よひひのひつたゆれが聲うねびんちんちんあま
は天和く紅浮の場をまのあまこよまこひまのまつらあ
トノまつらの時をまよふまよふまよふまよふまよふまよふま
とよひてまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふまよふま

ふの海に...
あつぬびおほき文よわらあ...
こましく...
しんせん...

反歌

後居而戀乍不有者木國乃妹背乃山雨有益物乎

おくらあて...
きつあん...

吾背子之跡履求追去者木乃関守伊将留鴨

わがせご...
本の関守伊...
けようし...

万解四上 廿四

二年し丑春三月幸三香原離宮之時得娘子作歌一首

并短歌 笠朝臣金村 聖武天皇二年五月壬申朔し亥建原

離宮へ幸あり...
天...
の下の宮へ...

三香之原客之屋取爾珠梓乃 道能去相爾 天雲之

みこのはら...
外耳見管 言将問縁乃無者 情耳 咽乍有雨

よそのみ...
天地 神祇辞因而 敷細乃 衣手易而 自妻跡

あめつち...
憑有今夜 秋夜之 百夜乃長 有 與宿鴨

たのめる...
たのめる...

與ハ七ノ誤

たのめる...

たびのやぐら幸の付後影の人の後菴とらん道のゆあひの難言の
 路まゝの合しとらんあまのつらむとらん料とらんのふとらん
 ともあのみとりとらん男とらんこよせとらん室とらん事依とらん
 のよせおしとらんこいり、まゝとらんの柁、おとらんてハ神とらん
 とらん物、自妻おのづま、河、ま千に於能豆腐平しとのまにおま
 とあり、おのちのち、おのちのち、おのちのち、おのちのち、おのちのち、
 せぬうしハあれうとらんおとらん

反歌

天雲之外後見吾妹兒爾心毛身副縁西鬼尾
 あまのこものよとらんおとらんおとらんおとらんおとらんおとらん

悼惠王世家ハ舍人恠之以為物而飼之 雲隠曰姚氏 又和名抄鬼 安之 岐毛
鬼の字をのけるハ史記齊

万解四上 廿五

今夜之早開者為便乎無三秋百夜乎願鶴鴨
 このよとらんおとらんおとらんおとらんおとらんおとらん
 五年戊辰太宰少貳石川足人朝臣遷任餞于筑前國蘆
 城驛家歌三首 續紀和銅四年四月丙午朔壬午授正六位下石川朝臣
足人後五位下
 天地之神毛助與草枕羈行君之至家左右
 あめつちのかみもつとらんおとらんおとらんおとらんおとらんおとらん
 大船之念憑師君之去者吾者將意名直相左右二
 おほぶねのねひいのみとらんおとらんおとらんおとらんおとらんおとらん
大ぶねの柁、こしんなの柁、こしんなの柁、こしんなの柁、こしんなの柁、
 山跡道之島乃浦廻雨縁浪間無牟吾意卷者

やまのちのまをれらわよあるたのあひふかろくんらうらゝん

大和よる度なれらうらゝんらうらゝんらうらゝん

ばごこの浦をりわらへんらうらゝんらうらゝん

右三首作者未詳

大伴宿禰三依歌一首

後紀天平宝字三年五月甲戌相壬午後

吾君者和氣乎波死常念可毛相夜不相夜二走良武

わづみわげをさねとゆへあやよあやよあやよあやよあやよ

君ハ女とて和氣ハ日祿田と為りて人ノ名又姓のハ

ねるまわげとてさねとゆへあやよあやよあやよあやよ

集事ノわけハ人と被りては縁ハ女ハ女とわたりて

主女ハ即よみ人の物なれどあやよあやよあやよあやよ

あやよあやよあやよあやよあやよあやよあやよ

幸ハ戲奴ガ有るまわげとてさねとゆへあやよあやよ

君ハ女とて和氣ハ日祿田と為りて人ノ名又姓のハ

ねるまわげとてさねとゆへあやよあやよあやよあやよ

集事ノわけハ人と被りては縁ハ女ハ女とわたりて

主女ハ即よみ人の物なれどあやよあやよあやよあやよ

あやよあやよあやよあやよあやよあやよあやよ

とわけとあやよあやよあやよあやよあやよあやよ

よれの物とてあやよあやよあやよあやよあやよ

自給してあやよあやよあやよあやよあやよあやよ

葦原中国悉園因此而常夜往とわらゆらゆら

よよあやよあやよあやよあやよあやよあやよ

おいやみハ年改の次ニ仰ぐやうに老朽と言ふも生ハ在の世也といふ
古訓トある一とあれバ家の信礼するやうなり何れもしててもさうい
大をとりつこえ又生まるるバあれこゝに列しつゝあれーとやういふ
れれどもいふつゝ比改の即女のおよわきをておとすといひバ比改即女
お察ありまつけく石代のきくはるる一とあれバ比改の即女のおい
うといふやういふ

孤悲死年後者何為年生日之為社妹乎欲見為禮

えん年 後と時いん

不念乎思常云者大野有三笠杜之神思知三

おとぬをけいさといひおほぬなるふのこのわたりのかみーとらうとらむ

和名抄筑前大野郡ニ神功紀熊鷲と撃んと一何よりうとらむ御

万解四上 廿九

大笠風子種少かろと御筆をうて思ゆ神水のしぬ為者十二日こ

もぬととらむといふもをうとらむのむれはとらむ

無暇人之眉根宇枝令搔尔不相妹可聞

いまぬのくひとのまゆねをうづらふがけつてもあをぬいものし

大野人うさるるれ眉のかゆさと一は後とらむ事十二日といふ

つゝとらむ御根と後よかしとらむとあれぬ人といふ

大伴坂上郎女歌二首

黒髪二白髪交至者如有意庭未相雨

くろかみふちろのみまじやあゆるまじかふるこひまじやあいはる

娘女いまも老るる程よあわらとる代があよろこぶあはかく白髪交

わらびとらむるあは次の方よあはよきと逢ふあはあははあはは十七

山崎の之路登麻匠おととらむるがらみし州のさうとらむ

山管乃實不成事乎。吾雨所依。言禮師君者。與孰可宿良年。
やまのけのまゆらねをこわればよせいよりしきみいふれいねん

山管ハ和名抄変川冬 夜麻 頃分 うまきもの心 年中 夏の子とちやよ
わう、ここのまゆらねをこわればよせいよりしきみいふれいねん
依らせしむらね、まゆらねをこわればよせいよりしきみいふれいねん
誰かまきとんとらふて

賀茂女王歌一首

大伴乃見津跡者不云。赤根指照有月夜雨。直相在登聞。

おびのみのみつあとをいへばあかねさしてあつたよあへつて

おびのみのみつあとのあかねさしてあつたよあへつて
えつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて

太宰大監大伴宿禰百代等贈驛使歌二首

草枕羈行君子。愛見副而曾来。四鹿乃濱邊乎。

万叶四上 三十一

者元省
三
二
作

草枕羈行君子。愛見副而曾来。四鹿乃濱邊乎。
くさまくらうたりひゆくきみをとらふくみをしてさう。志ののけはあへつ
志ののけはあへつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
右一首大監大伴宿禰百代
周防在磐國山字将超日者。手向好為與。荒其道。
あはうけはあへつてつてつてつてつてつてつてつてつてつてつて
和名抄周防改河形石田
右一首少典山口忌寸若麻呂
以弄天平二年庚午夏六月帥大伴卿忽生瘡脚。疾苦枕
席。因此馳驛上奏。望請庶弟稻公姪胡麻呂。欲語遺言者。
勅右兵庫助大伴宿禰稻公治部少丞大伴宿禰胡麻呂
兩人。給驛發遣。令看卿病。而逢數旬。幸得平復。于時稻公

等以病既療發府上京於是大監大伴宿禰百代少典山
口忌寸若麻呂及卿男家持等相送驛使共ヒナヒリ到夷守驛家
聊飲悲別乃作此歌

太宰帥大伴卿被任大納言臨入京之時府官人等餞卿

筑前國蘆城驛家歌四首 三十二年十月大納言下任らる

三埜廻之荒磯雨縁五百重浪立毛居毛我念流吉美

みまきまのあまらよよらふいゆかみふらふりあてもわがまゝるまゝ

こまき白地ろまわらぐ、和名抄汀水際乎砂也 和名三ツ 左木、世ハ浦色傳色の

どのや、トハまてりあていとらん序の

右一首筑前掾門部連石足

幸人之衣染云紫之情雨染而所念鴨

かろびよのころもそむじとむじとまきのころよまきくおらゆるかも

大伴ハ字澤といらん序の、幸ハ借字まゝ韓シ、又ハ幸ハ淋の借少く

よき人の、室也ハ幸ハ字万ニ字おといり

山跡邊君之立日乃近付者野立鹿毛動而曾鳴

やまのへまきまのちのちづけぬまゝつきのしとまみつてがわの

大伴の方面へ、鹿毛とて名跡を、みくゆるといふ、今本近の下付の

字と後を、元唐本よまゝに編へ

右二首大典麻田子ガ連陽春 此名やとらうまんの後紀神龜元年五

月辛未正八位上答本陽春陽麻田連姓とあり

月夜吉河音清之率此間行毛不去毛遊而將歸

つよのかはのこもよしとてふゆくもゆのあしあそびてゆのれ

大伴と神とを、石まの府の友人といひゆらんといふゆのれといふハ

例へ

右一首防人佑大伴四綱 佑とて本佐と後れり
太宰帥大伴卿上京之後沙彌滿誓賜卿歌二首 賜え唐

真十鏡見不飽君爾所贈哉且夕爾左備尔将居

まろがぶたゝのぬきみよ おんれれやあしゆをいぢつとをらん

贈の字ハ倍く後す又場所のつとをなほれりすもまては備

まろハハもいりてん

野干玉之黒髪變白髮手裳痛寤庭相時有来

ぬぎんたまのくろみぢるるがゆりていんきんしふあつとあきあり

お子大伴はと卿女のくろ髪より白髪よりあるやうに傳へりて

男女の志ハ各時をば別ハ再交結きを教へいも痛く候ふもまて

大納言大伴卿和歌二首

此間在而筑紫也何處白雲乃棚引山之方西有良思

こゝにあまてつりやいづくともれこたむびくやまのがくにあまら

まの作りてはまていんきんしはまの不知きことけりては

草香江之入江二求食蘆鶴乃痛多豆多頭思友無二指天

くさかみのりのあまらよあまら河川のあまらくもたうまが

あまらにの内くまらくともいんきんきんきんきんきんきんきん

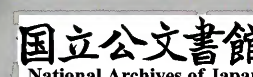
大納言大伴卿和歌一首

まろくしぢつとをらんまろくしぢつとをらんまろくしぢつとをらん
まろくしぢつとをらんまろくしぢつとをらんまろくしぢつとをらん
まろくしぢつとをらんまろくしぢつとをらんまろくしぢつとをらん

太宰帥大伴卿上京之後筑後守葛井連大成悲歎作歌

一首 倭紀神龜五年五月正六位上葛井連大成授外後五位下

まろく



從今者城山道者不樂年吾將通常念之物乎

いまありはまきのやまみちらひさびかんわのかまうんとたけりしものを

大等八代坂上郎女今もかき味の出ましくまを石付のこの城のらま

まうらふと志事府をく獲るへ趣道のを山とぞまをこんとまをハ

ゆつこのれくまをまをまじしと

大納言大伴卿新袍贈攝津大夫高安王歌一首 務のま

一を卿のちまう此時衣服の製改まるれ又新しく作らるるま

吾衣人莫著曾網引為難波壯士乃手雨者雖觸

わのころむむとあれまをあひきまはるたまはまのておひまを

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

一芳解四上 三十三年

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

大伴宿禰三依悲別歌一首

天地與共久住波年等念而有師家之庭羽裳

あえつむとやまねいましくままけんとむひしてあまのいへのあはま

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

大文よまをて教く初んまをまをまをまをまをまをまをまを

まをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

金明軍興大伴宿禰家持歌二首 明軍者大納言卿之資人也

奉見而未時太爾不更者如年月所念君

みまつりていまむときだまかまをまをまをまをまをまをまを

かゝるねぞハ俗のかりぬやう

是引乃山雨生有菅根乃熱見卷欲君可聞

あしひきのやまにぬいほさきりのねのねむらみきりきさき

かたねのころりりてんたの

大伴坂上家之大娘報贈大伴宿禰家持歌四首

生而有者見卷毛不知何如毛将死與妹常夢所見鶴

いさくあらみまもくもきさふおちりもさかの人よいかいさあみえつる

の軒ゆきとくしおきくくれかきまなぐく又あんとしおとれ

天ぬをがさささあまのたまかあさあさささささささささ

大えつんとうけ

丈夫毛如此意家流乎幼婦之怠惰雨比有目八方

まさしをしかくしひるをたなめのもさささささささささ

徒ヲ今
ニ誤

女のつらさうのよとあ、さくたごんらうやれたごんらうや
うらさうさくさささささささささささささささささ
かゝるね

月草之徒安久念可母我念人之事毛告不来

しづささのうらひやささささささささささささささ

しんまにさちつ頭草ささささささささささささささ

うらのいささささささささささささささささささ

たればんのれかささささささささささささささ

ささささささささささささささささささ

春日山朝立雲之不居日無見卷之欲寸君毛有鴨

かゝるねまあささささささささささささささ

あささささささささささささささささささ

大伴坂上郎女歌一首

出而將去時之波將有乎故妻意為乍立而可去哉

いでいかりんごまきいあらんをこころもさうらひのまじりてふらていねべや

捨ぞりけりよりのまや出てりけりてあらんをこれとゆふらひつ

ひまきりりべまきよのまらあらん

大伴宿禰^{イナギミ}公贈田村大嬢歌一首

元 大伴宿奈麻呂卿之女也

倭紀天平十二年十二月後五位下大伴宿禰稻君為因幡守

上り仲大伴御病時驛使は贈寄のたに庶弟稻公のつらさ

不相見者不慮有益乎妹乎見而本名如此耳意者奈何將

為

あひえいはいさくらまをいよとそくわなかくのみとむいづせん

さしけりハな申しうこまむひまきつくはとらふ

右一首姉坂上郎女作

首六のほろもへー

笠女郎贈大伴宿禰家持歌廿四首

吾形見見管之努波世荒珠年之緒長吾毛将思

わがかみみいつとぬぐせあらうまのこれをなうづわれもおもはむ

んつ了まあひもくせん年の信ハ玉の信葉の信の信もひくく年とせく

後くものたつとてとく洪のちと加ふなん

白鳥能飛羽山松之待下曾吾戀度此月比乎

しらとりののばやまらつのもちつそわづみわらこのひまらるを

しらとりの枕はしら大和の内よまねいしらのを抱よあふぞおんまら

ついでん席の

衣手手打廻乃里爾有吾乎不知曾人者待跡不来家留

ころがせとらうのまらひあふれとまらげがひいあふとこぞん

荒玉年之經去者今師波登勤與吾背子吾名告為莫
あまのまのこのへげばまはとゆめわらせこのつなののらまれ
今いとくしに御前のお訓をくさくさくきよんゆめをくさくさく
吾念乎人爾令知哉玉匣開阿氣津跡夢西所見
わのあひとひふさくらせやたまうげいさあけついであひまう

鶴ヲ今
鴨ニ誤

君爾意痛毛為便無見極山之小松下爾立嘆鶴
きみよこひいしきんたなまうやまめこまうわもふしんたなまう
吾屋戸之暮陰草乃白露之消蟹本名所念鴨
わのあひとひふさくらせやたまうげいさあけついであひまう
夕夜まはまのあまわらび水産ま山産まといふまはまのあひまう
まへにわははくしんたのまへにわははくしんたのまへにわははくしんた

幸哉

吾命之将全幸限。志目八。彌日異者。念益十方。
 わのいのちのまゝくも、むかむか、あはれめやい、やい、けふ、あはれ、まはれ、まはれ、
 将全幸ハまさけん、とよみ、まはれ、あはれ、まはれ、まはれ、まはれ、まはれ、
 八百日往濱之沙毛。吾意二豈不益歟。奥島守、
 やほのゆくはまのまゝごと、わのこひ、あはれ、まはれ、まはれ、まはれ、まはれ、
 宇都蟬之人目并繁見。石走間近。君雨意度可聞。
 うつせみのひとめとまはれ、まはれ、まはれ、まはれ、まはれ、まはれ、
 万解四上 三十七

意雨毛曾人者死為水瀬河。下後吾瘦。月日異、

あさぎののち、あひみ、ひとめ、まはれ、まはれ、まはれ、まはれ、まはれ、
 伊勢海之磯毛動。雨因流浪。恐人雨意度鴨、
 いせのうみのいそ、あはれ、まはれ、まはれ、まはれ、まはれ、まはれ、
 朝霧之鬱相見之人。故爾命可死。意渡鴨、
 朝霧の鬱相見之人、故爾命可死、意渡鴨、
 朝霧の鬱相見之人、故爾命可死、意渡鴨、

きんごうくふほつちのちりべー、室ちハ且本和丹の信ちく、わさよけーる

らんちいりう、ねちきー、

皆人乎宿與殿金者打禮杼君乎之念者寐不勝鴨

みぢもしんもねよよのかねうつたねだまきみそまじりねぞそねよ

ねよの清いまのすく、天武紀人定とスゆ、まの町ま入りわてまづうれバ

ちのいり、いねぞそねよ、いねあゝゝ、まゆいねぞそそり、いねぞそね

とり、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、

落しつゝ、いねぞそね、いねぞそね

不相念人乎思者大寺之餓鬼之後雨額衝如

あひおのめいしんもねよ、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、

佛よむりく、れおせ、まあんと、縁鬼のま、いねぞそね、いねぞそね、

いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、

とわさく、ちの信貪の悪報とまさんるよ、伽藍のま、あよ、機鬼と作

ておん、わさく、いねぞそね、いねぞそね

從情毛我者不念寸又更吾故郷爾將還來者

うろゆあ、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、

妾沖ま、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、

いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、

女のま、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、

近有者雖不見在子彌遠君之伊座者有不勝自

ちのあ、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、

いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、いねぞそね、

も、いねぞそね、いねぞそね

つぎにちかぢのちかぢを十二かへりして未だはのちのちかぢをいふ

從蘆邊滿來塩乃彌益荷念歟君之忘金鶴

あべよみみくさるる志のいぢまけりかみみいひのちかぢをいふ

かひやまうやういせん座のちかぢをいふ

とまのついでといふはゆゑ

大神女郎贈大伴宿禰家持歌一首

狭夜中爾友喚千鳥物念跡和備居時二鳴乍本名

さよあつのおとよぶらぶらとこのりまじひしよとまきよたきつりかみれ

大伴坂上郎女怨恨歌一首并短歌

麻るのままとぬく二女とせりともんぬま三祭神等とまきよ

此の歌を麻るようけとまきよのちかぢをいふ

巻一

字八手
ノ保

押照難波乃管之根毛詩呂爾君之間四字年深長

わけてるがさののまげのおうころよまきよまきよとまきよ

四云者真十鏡磨師情乎縦手師其日之極浪之共

しいはまきよがまきよとまきよとまきよとまきよのひのまきよとまきよ

靡珠藻乃云云意者不持大船乃憑有時舟

わびくたまものかまきよとまきよとまきよとまきよのあまきよ

千磐破神哉將離空蟬乃人歟禁良武通為君毛

ちかぢをいふかみやまきよとまきよのいひとまきよとまきよ

不來座玉梓之使母不所見成奴禮婆痛毛為便無三

きまきよとまきよのつづいひとまきよとまきよとまきよ

夜干玉乃夜者須我良爾赤羅引日母至闇雖嘆

ぬばたまのよるるまきよとまきよとまきよとまきよ

西海道節度使判官佐伯宿禰東人妻贈夫君歌一首

後紀天保四年八月丁酉... 授外位五位下

無間意爾可有年草枕客有公之夢爾之所見

あひまゝ... くれぬのあはれ... 夢のまにまに...

夫のまにまに... くれぬのあはれ...

佐伯宿禰東人和歌一首

草枕客爾久成宿者汝乎社念莫意吾妹

くさぶら... ながく... 社念... 意...

わくところ... 妻と... くれぬのあはれ...

池邊王宴誦歌一首

後紀神龜四年正月無位池邊王授後五位下

大友皇子之孫葛野王之子後海真人三船之父也

二鳥 二誤

松之葉爾月者由移去黄葉乃過哉君之不相夜多焉

まの... 月... 黄葉... 君之... 不相... 夜多...

く... と... 月... 黄葉... 君之... 不相... 夜多...

ぬ... の... 月... 黄葉... 君之... 不相... 夜多...

き... の... 月... 黄葉... 君之... 不相... 夜多...

天皇思酒人女王御製歌一首

女皇者德積皇子之孫女也

を... 皇... 女... 皇... 德積... 皇子... 之... 孫... 女... 也...

後四位下酒人内親王三品

道相而咲之柄爾零雪乃消者消香二意云吾妹

み... 道... 相... 而... 咲... 之... 柄... 爾... 零... 雪... 乃... 消... 者... 消... 香... 二... 意... 云... 吾... 妹...

ら... の... 道... 相... 而... 咲... 之... 柄... 爾... 零... 雪... 乃... 消... 者... 消... 香... 二... 意... 云... 吾... 妹...

お... の... 道... 相... 而... 咲... 之... 柄... 爾... 零... 雪... 乃... 消... 者... 消... 香... 二... 意... 云... 吾... 妹...

かけりまけん

高安王タカヤス累鮎贈娘子歌一首 元高安王者後賜姓大原真人氏

後紀天平十一年四月甲子後四位上高安王を賜大原真人之姓とす

奥幣往邊去伊麻夜為妹吾渙有藻卧東鮎

おきべゆきへゆきいまやいばがめわがまゆれるとよいつづがれ

今やハナリよん、藻一ツの鮎ハ藻一ツのわの鮎といふも、後紀

入地後、石川といふ鮎ハ、おまぬかふるやと藻とといふも、室

ハ伊麻夜といふやと刊、勤の節とやると、後考へり

八代女王ヤシロ獻 天皇歌一首 後紀天平宝字二年十二月丙午毀

後四位下天代女王位記、以被幸先帝而政志とあり

君爾因言之繁字古郷之明日香乃河爾潔身為爾去

きみよよふことのとまげきこふるものわたりれがよみそきてよふゆ

一尾云龍田超三津之濱邊雨潔身四二由久

人のねるまいつことのとまげきこふるものわたりれがよみそきてよふゆ

娘子報贈佐伯宿禰赤麻呂歌一首 娘子誰ぞ忘れど報ハ

新字のたがは、贈身とす、の、後、し、の、

吾手本將卷跡念牟大夫者意水定白髮生二有

わのこもまかんとおもひを、まきまらるを、かまひぶふ志づ、まらふひあや

まらん、枕をせんよりの、まきまらるを、かまひぶふ志づ、まらふひあや

かまひぶふ志づ、まらふひあや、我れといふ、まらふひあや、

佐伯宿禰赤麻呂和詞一首

白髮生流事者不念意水者鹿糞藻闕二毛求而将行

まらふひあや、まらふひあや、まらふひあや、まらふひあや、

白雲とまじひかたきりてありんよかみとてはなれぬ二は天の世に

大伴四綱宴席歌一首

奈何鹿使之来流君乎社左右裳待難為禮

なにかしとつものまじつるよきとそかたかくもたはれかたしは

けあまもあまぬ人へかきりるるはたきりてはあまの使とたつとせん

吾佐伯宿禰赤麻呂歌一首

初花之可散物乎人事乃繁雨因而止息比者鴨

もつれのもちるべきかのそひとこのまがきよよるとりよとむもつるも

あふ女のちよよのよるるぶじにあらんとおんどく人の様もくもつれ

るうまのいひあふ女とあまのこころもつるもつるもつるもつるも

湯原王贈娘子歌二首

宇波弊無物可聞人者然許遠家路守令還念者

うはなむのもののひとた志のけりしとよきつらとてかきもたもつる

オ下は得羽重無娘子

あまよとあまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

あまのこころをまきしを素遠く源氏わがちりたうをんしのたつ

目二破見而手二破不所取月内之楓如妹字奈何責

めふハみくぞふいさくらねねのふものかみらのごときいねとくいなとせん

和名抄引兼名苑月中有河向上有桂高五百丈とるごとくもよみよ

いふさよふみゆ和名抄楓乎加 豆良 桂 女加 豆良とるごとくもよみよ

娘子報贈歌二首

幾許思異目鴨敷細之枕片去夢所見来之

いのぢうらぶねけしひげめかしよきりかへのまゝとろかごさるふいめふよさこー

孝五ゆいふいふとふあしとみいねほがほ加利くりくあるとんといわれハ幾許と

かよくあらしあのおの二そはまうけひのさるうぬまきけさうハ改まきとてに

卷五麻父良佐良受提いめやいえんごんとを思へばこしり片ハ不のま

あくちうくうらふとくふいんとるひんはれま定ちまき十八夜床加多古里

たるとて古ハ左のほまをけつハ床と片遊てぬるくさけけお湯

原まのあをくまふるあふ枕と片遊うてけやきよらうてぬるあふまきあまへ
さうととくまことといへらさうまへー

家二四手雖見不飽乎草枕客毛妻與有之乏左

いへりてみれどあふどくふらとくさびきもつまてあふあふんーさ

次は率ハれいさあが引具うて枕をよゆ居るふうハよあるなうへん

よらと四そハ柱のきん成人きとハ乃のほへ妻ハ夫と湯原まるとりてん

室ものへり

湯原王亦贈歌二首

草枕客者孀者雖率有匣内之珠社所念

うらさかきあふいふはいさみあふれどくげのうらめいさあふりへ

接尾まきむきあふらうつれども匣中のものやくめでけりよとん成人まの白る

うらさかきあふいふはいさみあふれどくげのうらめいさあふりへ

率今
率誤

まうがうとていふて室をいふ

余衣形見雨奉布細之枕不離卷而左宿座

わがころもがみよまうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふ

娘子復報贈歌一首

吾背子之形見之衣孀問雨余身者不離事不問友

わがせこがみよまうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふ

湯原王六贈歌一首

直一夜隔之可良雨荒玉乃月歟經去跡心遮

たぢいよとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

娘子復報贈歌一首

吾背子我如是意禮許曾夜干玉能夢所見管寐不所宿家

わがせこがみよまうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

まうがうとていふて室をいふのまうがうとていふて室をいふ

法久

又ハ廣背のほろくむろせの廣漱川ハ事セはよありて室長ハ吾ハ君のほろ
てきみのつらむらひとていふたをすべしハのニそと合せるくまのま
のけりてふそくよありてあり

今者吾羽和備曾四二結類氣乃緒爾念師君予綴左思者
いまハあはれびにむらむらみのそなかりしきみとゆきまくとおひは
いさのとハ命とていふとてハゆりて是れとてハゆきまくとおひは
いせぬとてたとのうらみ用いふたをて外てたをかくていへん
いさゆきまくとていふとて一本たと久もゆきまたとハゆきまくと
をくむらむ

泣流
二誤

白妙乃袖可別日乎近見心爾咽飲哭耳四所泣
ましろのそなかりしきみとていふとてハゆきまくとおひは
泣と流とて一本とて政つ飯え後本飯は他のちむらむむせむて

わんていせむらむむらむ





方解四上終五十

